

## 説教余滴

『カッコウの餌は？』

前主日、「若木 287 号」が発行されました。四季折々のトピックを載せて、教会の様子を知らせてくれます。担当の委員さんは四名。発行して間もなく次号の準備に取り掛かる。慌ただしく、忙しく、よくやったださるものだ、と感心・感謝しています。また、執筆、投稿して下さる方々にも御礼申し上げます。

さて、今号には「国道 16 号」に関する原稿を載せていただきました。はじめは、「国道は酷道」という意図で書きました。途中まで進んで、気付きました。というより、思い出しました。醤油の香りと共に、野田の醤油工場群を。そして野田公園のこと。教会学校・青年会のピクニックでは、元気の良い青年が、アスレティックで遊び、池にザンブリ落ちたこともあったなあ、と。そしてカッコウのこと。字数の関係で十分には書けませんでした。この場をお借りして、続きをお伝えします。

三浦半島に来てから三年、まだ一度もカッコウの鳴き声を聞いていません。渡来コースから外れているのでしょうか、その時期になっていないのでしょうか。繁殖の頃が鳴く時期のようです。信州の山の中では、ちょうど繁殖、ペアリングの時期なのでしょう。うるさいほどに鳴き交わしています。飛びながら鳴いていました。そうして次第に山奥へ移動して行きました。これが五月のこと。

やがて九月、繁殖を終え、南に帰る時期が来ました。国道 16 号に沿った野田公園、カッコウが集まります。南の国へ渡る前の準備。音もなく、声も立てず、静かに木から木へ、枝から枝へ飛び移る黒い影。彼らが求めているのは、公園の桜木についているアメリカ・シロヒトリ、という名の毛虫です。桜は良いのだが、あの毛虫はいやだね、とよく言われています。カッコウは、桜は大好き、あの毛虫がたくさん付いているから、と言います。秋を迎えようと毛虫も十分摂食して、カッコウの捕食に備えているように感じます。